「物気色」展覧会第二弾は、モノ学・感覚価値研究会アート分科会の原点に立ち返えり、展覧会とゼミナールでこれからのアートと日本について考えます。

物気色

モノケイロ

contemporary art's blind spot : Spirit Signs

MONOKEIRO 11・11

モダンの死角　モノノケハイをアートに依せて

11・11

モノ学・感覚価値研究会
アート分科会展覧会
＋座（ゼミナール）

出品作家

大西宏志（映像）
大舩真言（絵画）
狩野智宏（ガラス造形）
上林壮一郎（プロダクトデザイン）
近藤高弘（造形）
スティーヴン・ギル（生け石）
坪文子（ジュエリー）
山田晶（陶芸）
山本健史（陶造形）
（50音順）

座（ゼミナール）

10日（木）19:00〜21:00
鎌田東二（京都大学こころの未来研究センター教授、宗教哲学）
「モノ学的世界観と自然の力と人の営み」

11日（金）13:00〜15:00
出品作家＋山本豊津（東京画廊、アートディレクター）
「震災以降のアートは何をすべきか」

11日（金）19:00〜21:00
武田好史（京都造形芸術大学非常勤講師、数寄者）
「モノケイロとアンビエントアート」
※この回のみ会場が春庭居（武田邸）になります。

12日（土）13:00〜15:00
渡邊淳司（NTTコミュニケーション科学基礎研究所、リサーチスペシャリスト）
＋松井茂（東京藝術大学特任講師、詩人）
京都大学こころの未来研究センター連携企画
「触れることで情報を接地する試み」

12日（土）16:00〜18:00
原田憲一（京都造形芸術大学教授、地球科学）
「地球と折り合って暮らす智恵」

13日（日）13:00〜15:00
稲賀繁美（国際日本文化研究センター教授、比較文化史・文化交渉史）
＋小崎哲哉（「REAL TOKYO」発行人兼編集長）
「デザイン的思考と身体的思考の文明論」

2011年11月11（金）、12日（土）、13日（日）

午前10:00〜午後6:00（最終日は午後5:00まで）

会場：遊狐草舎（ゆうこそうしゃ）（京都市北区紫竹西南町17−3）

入場：無料

お問合わせ：モノ学・感覚価値研究会アート分科会　monokeiro@yahoo.co.jp

主催
モノ学・感覚価値研究会
http://homepage2.nifty.com/mono-gaku/

協力
東京画廊
http://www.tokyo-gallery.com/

遊狐草舎
http://yukososha.blogspot.com/

「物からモノへ」展（2010年1月、京都大学総合博物館）、「物気色」展（2010年11月、京都家庭女学院・虚白院）、「モノケイロケモノ」展（2011年1月、東京画廊）。これまで、モノ学・感覚価値研究会アート分科会では、研究会で得た知見をもとに三度の美術展を実施してまいりました。そしてこの度、第四弾の展覧会（「物気色」展としては二回目）を開催いたします。今回のテーマは、自分達の原点を見直すこと。アーチスト達が、この研究会との関わりのなかで考えてきたことを作品を通して発表する。あるいは制作を通して考えを深めてゆくことを目的とした小さな展覧会です。

展覧会の名称は、今年3月11日に起きた東日本大震災と原発事故、そして2001年9月11日にマンハッタン島で起きたテロによるツイン・ビルの崩壊を踏まえたものです。これらの出来事は、私たちのアイデンティティを大きく揺さぶり、一人の人間として、またアーチストとしての生き方に問い直しを迫るものでした。また、この企画を進めているただ中、台風12号が日本列島を襲い近畿地方を中心に大きな爪痕を残しました。このこともまた、現代人の営みについて考えさせられる出来事となりました。

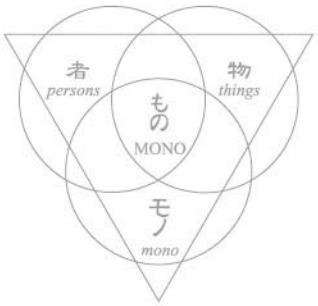
モノ学・感覚価値研究会では、近代の見直しを日本語の「もの」という言葉を切り口にして行ってまいりましたが、これらの活動は、こうした災禍を経験したことで益々重要になってきたと感じています。こうした中、出品作家の一人一人が何を感じ何を考えたか、展覧会という形で示したいと思います。合わせて、座（ゼミナール）を開催いたします。座は、リラックスした雰囲気の中で、座主（モデレータ）が用意したテーマについて自由に語り合う場です。皆さまのご参加を心からお待ちしております。

物気色 モノケイロ 11・11

モダンの死角 モノノケハイをアートに依せて

出品作家

大西宏志（映像）
大舩真言（絵画）
狩野智宏（ガラス造形）
上林壮一郎（プロダクトデザイン）
近藤高弘（造形）
スティーヴン・ギル（生け石）
坪文子（ジュエリー）
山田晶（陶芸）
山本健史（陶造形）
（50音順）



MONOKEIRO11・11
contemporary art's blind spot : Spirit Signs

2011年11月11（金）、12日（土）、13日（日）
午前10:00〜午後6:00（最終日は午後5:00）

会　場：遊狐草舎（ゆうこそうしゃ）（京都市北区紫竹西南町17−3）

入場料：無料

主　催：モノ学・感覚価値研究会
http://homepage2.nifty.com/mono-gaku/

協　力：東京画廊
http://www.tokyo-gallery.com/

遊狐草舎
http://yukososha.blogspot.com/

お問合せ：モノ学・感覚価値研究会アート分科会
monokeiro@yahoo.co.jp

アクセス

・北大路駅、北口から西へ徒歩15分
・市バス駅、東高縄町から今宮通を西へ徒歩5分
・市バス駅、大徳寺前から大徳寺通または大宮通を北へ徒歩5分

モノ学・感覚価値研究会アート分科会展覧会＋座（ゼミナール）

座（ゼミナール）

10日（木）19:00〜21:00
鎌田東二（京都大学こころの未来研究センター教授、宗教哲学）
「モノ学的世界観と自然の力と人の営み」

11日（金）13:00〜15:00
出品作家＋山本豊津（東京画廊、アートディレクター）
「震災以降のアートは何をすべきか」

11日（金）19:00〜21:00
武田好史（京都造形芸術大学非常勤講師、数寄者）
「モノケイロとアンビエントアート」
※この回のみ会場が春庭居（武田邸）になります。

12日（土）13:00〜15:00
渡邊淳司（NTTコミュニケーション科学基礎研究所、リサーチスペシャリスト）
＋松井茂（東京藝術大学特任講師、詩人）
京都大学こころの未来研究センター連携企画
「触れることで情報を接地する試み」

12日（土）16:00〜18:00
原田憲一（京都造形芸術大学教授、地球科学）
「地球と折り合って暮らす智恵」

13日（日）13:00〜15:00
稲賀繁美（国際日本文化研究センター教授、比較文化史・文化交渉史）
＋小崎哲哉（「REAL TOKYO」発行人兼編集長）
「デザイン的思考と身体的思考の文明論」